

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1170800807		
法人名	有限会社 新生・ケア・コミュニティ		
事業所名	グループホーム オ・ハナ		
所在地	埼玉県越谷市弥栄町3-43-189		
自己評価作成日	平成22年4月20日	評価結果市町村受理日	平成22年6月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1170800807&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市宮前町2-241		
訪問調査日	平成22年5月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者と職員が共に支え合いながら信頼関係を築き、お互いに思いやりをもち張り合いのある日々を過ごしています。日常生活では、掃除や洗濯、食事の支度など、利用者一人ひとりが「できること」への支援に心掛けています。散歩や買い物では、地域の人達とのふれあいもあり、利用者の楽しみの一つとなっております。健康面では、バイタル測定、排泄チェックを始め医療関係機関と密に連携を図るとともに、利用者が安心して暮らせるよう職員は統一した支援の実践に心掛け、地域の中で根付くグループホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

現在入居者は全員女性である。主婦として培ってきた能力が発揮出来るよう、買物、炊事、洗濯、掃除等は、個々の能力に応じて職員と共に行えるように支援している。管理者や職員は「自分達の思いや考えを入居者に押し付ける支援にならないように心掛け、日々の業務を行っている。又、外部評価を受ける事は、自分達の取組みを振り返る良い機会であると捉え、それをサービスの向上に繋げる取組みをしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域を意識した理念の一つに「慣れ親しんだ地域の人たちとの交流を大事にします」の実践に向け、散歩や買い物、地域の行事に参加したり地域の人たちと触れ合う機会も増えています。	「オ・ハナはもう一つの家族」という理念を掲げ、ケアの根本は思いやりの心であるという考えをもとに、ミーティングや会議だけでなく折に触れ話合う機会を設けている。自分達は介護する立場だけの人間ではない。距離感を大切にしながら人と人として関わっているという考えを共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設当初より自治会に加入しており、今年度は自治会班長として広報の配布・回覧板や集金等を利用者と共に行ってきました。また、自治会の夏祭り、文化祭に作品を出展させて頂き、防災訓練にも毎年参加させて頂いています。	開設当初から自治会に加入し、班長を務めたり、夏祭り、文化祭、防災訓練にも毎年参加している。ホームの機関紙100部を近隣に配布したり、地域の方々の介護相談の窓口としての取組みもしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年4回の機関紙を通してグループホームの生活状況や認知症予防等関心をもって頂けるよう発行しています。今後は近隣のひとり暮らしの高齢者へのサポートを自治会と共に取り組んでいきたいと考えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的とは言い難い状況ですが、少しずつ地域にあるグループホームだと認識して頂いている途上だと思えます。運営推進会議には自治会長さん副会長さんをはじめ包括支援センターの方の出席をして頂いています。	年二回の開催である。自治会役員、家族、入居者が主な出席者であるが、今後は地域の消防や警察等公的な機関の出席を得て、「オ・ハナ」をより広く深く知って貰いたいと考えている。又、認知症予防や対応の情報提供をする事で地域への貢献がどれだけ出来るかを話合っていきたいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定更新時の手続き等を含め、現場の実情報告や問題点等の相談助言を頂いています。また部会や介護フォーラム等にての交流を行っています。	認定の更新申請時等に役所を訪問した時等に、現状報告や問題点等の相談を積極的に行い、助言や指導を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束は絶対行わないという考えの下、玄関及び居室も含め施錠は行っていません。また身体拘束はということかを話し合う機会を設け、再確認しています。	玄関の施錠を含めて、拘束につながる行為は一切行っていない。強い口調で拘束する言葉もなく、入居者は自由でのびのびとした雰囲気の中で過ごしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢虐待防止法の研修参加やということなのかを具体例をもって話し合う機会を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は外部研修に参加し、また家族や訪問者等に紹介できるよう玄関にパンフレットを置いています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約及び改定の際には、御家族とゆっくり話し合える時間を配慮し、不安や疑問点をお聞きしながら理解して頂けるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時には、要望等をお伺いしたり、気付きの点で気軽に声をかけて頂けるような交流を心掛けています。また管理者は、苦情意見を総合的に受ける窓口として御家族にはお話をさせて頂いています。	入居者と職員が1対1で話合う機会を必ずつくっている。表出された意見や要望はミーティングで検討し、運営に反映して。家族に対しても気軽に声掛けをして、気付きや要望を話しやすい雰囲気作りをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なミーティングを開催し、職員ひとりひとりの意見要望等を聞くなど、話し合いの状況作りを心掛けています。	皆で作り上げるホームという考えが根本にある。何か物事を決める時には必ず職員の意見を聞き、取入れて行く方針を一貫している。日々の業務から生じる気付きは、ミーティングの他に個別の面談から汲み取る方法をとっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	小さい事業所のため、職員個々の状況把握はできていると思いますが、意見や提案等その都度、話し合う機会をもつよう心掛けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力や質の向上の為、外部研修や国家資格取得に向けシフト調整等、受ける機会の確保をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の部会の研修参加等、他事業所の訪問時には影響されたこと等話し合い、質の向上につなげるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係を築くためにご本人の希望や要望、今現在の生活での不安を見学時にゆっくりとお話をしていますが、ご本人の意向を尊重し、何度でもお話できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いつでも気軽に御相談して頂けるように電話連絡や来訪、携帯メールで不安・要望を聞くように心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の要望をお伺いし、他のサービスの支援や情報等お話をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者が共に生活していることを意識し、互いに協力しあえる場面作りを大切にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	その日の様子を月に一度報告しながら、来訪時には、声をかけて頂くようにしています。また、利用者から家族に向けてハガキを送ったり電話の支援をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前住んでいた御近所の方やお友達の来訪や電話での交流を気軽にできるよう心掛けています。	以前住んでいた近所の方の来訪があったり、電話をかけてくれる方もある。その交流が継続出来るよう支援している。又、ご家族と買物や墓参り等に出掛ける方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は全員がリビングで過ごすことが多いため、互いに助け合ったり、面倒をみたりしていることが多く見られるため、見守っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療処置の必要性やご家族の都合により退去・入院に至った場合、お見舞いにお伺いしたり施設へ転居された方達には年賀状を継続し送っています。また、家族の了解の下、必要に応じ介護記録などの情報提供を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で利用者の希望を個々に聞ける環境を作り、把握に努めています。御家族やこれまでの本人の生活暦を踏まえた上で、往診医や訪問看護師と相談しながら本人の思いを汲み取れるように職員間で情報を共有し支援しています。	どの職員も入居者と1対1で対話する時間を必ず設けている。一人の入居者がいろんな職員に見せる顔、発せられた言葉、その時の様子から個々の気持ち、意向を汲み取る取組みをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及びご家族、ケアマネージャーからの聞き取りを通して本人の意向を踏まえたサービス支援を行うようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間記録と日々の様子を活用し、心身状態を把握するよう努めています。また状態変化が見られた場合、別途2号用紙に記録すると共に、申し送りを通し職員が継続的な支援を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の希望を優先に考え、御家族、訪問看護師、職員の意見交換を行い、介護計画に反映させ作成しています。	入居時の丁寧なアセスメントや日常生活の中での気づきを訪問の看護師や職員で話し合い、介護計画につなげている。毎月モニタリングを行い、見直しをすると共に、必要に応じて計画の変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が日常生活の気づきを個別の24時間記録と日々様子をに記録し、申し送りを通して情報を共有し、介護計画の検討を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの意向を考慮し、外食や買い物を支援しています。また、ご家族の状況に応じて、往診医以外の医療機関へ付き添う場合もあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の文化祭や夏祭り、地域行事の参加や自治会を通じての消防訓練を行っています。また地域のボランティアの方の定期的来訪、近隣の中学生による職場体験の実習受け入れも行っていきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診を行っていますが、1年に1回はご家族が往診に立ち会い、身体状況の確認、今後の本人及びご家族の希望など相談できるように、支援しています。	契約時に協力病院が主治医となる事を説明し、同意を得ている。月二回主治医の往診があり、医療との連携は密に取れている。古くからのかかりつけ医への受診は、家族に関わって頂く事で家族との関係が切れず、情報の交換もスムーズに出来るような仕組みである。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週1回来訪し、日常の利用者の状況を職員と共有し、緊急時は24時間対応しています。また、状態に応じて助言や主治医への連絡確認を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、ご家族との情報交換を行いながら、入院している医療機関から生活状況等の注意点を話し合い、主治医への連絡調整を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、ご家族と常に連絡をとり、更に主治医が家族と話し合っ、どのような終末期を迎えるのかを確認し、職員を含め全員で方針を共有しています。また、継続的医療行為が必要になった時も主治医、看護師と連携を図りながら終末期ケアを行いました。	重度化した場合、家族の希望や状況に応じて家族と共に支援していく仕組みである。更に主治医、看護師との連携を強化し、他の入居者への影響を考慮しながら全職員で話し合い、取り組んでいく。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルと緊急時連絡網が備えてあり、市の心肺蘇生やAEDの研修参加等により、急変時や事故に備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っており、訓練時における注意点を話しあっています。また自治会や近隣の方々にご協力を働きかけています。	年二回消防を入れた避難訓練を実施している。又、夜間を想定した訓練は、夜勤者という設定で行う為、職員一人で行うが、必ず立合う職員がいる。第三者の立場で問題点を抽出してもらい話合っている。全ての職員が参加している。	今後、非常用の備品、食料の準備もする事で、より強固な災害対策がなされる事が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者本人の意思を否定せず、一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーやプライドを傷つけないように、職員が相互に日常の言動を振り返り対策を検討するなど対応しています。	職員は、入居者から学ばせて頂いているという姿勢で接し、プライバシーやプライドを傷つける事のないよう言葉の掛け方や対応に配慮している。職員はさりげなくゆったりした感じで接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の主体性・自立性を大切にし、食べたいもの、したいことなど、常日頃利用者の意見に耳を傾け、希望に添えるよう努力しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調や気分を考慮し、本人の意思を確認しながら、居心地の良い生活が送れるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服は本人が選んでいます。困難な時は一緒に行きます。隔月に来訪するボランティアグループの美容師さん達にメイクや髪の毛のカットをご本人の希望に沿って行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の得意分野を活かし職員と共に買い物、食事の準備や片付けをそれぞれが行い、プロセスを楽しんで頂きながら食事へと繋がるように配慮しています。	食べる事だけが楽しみではなく、食事の準備も楽しみとして捉えている。入居者は調理、盛付け、配膳、後片付け等も個々の能力に応じて参加している。出来る範囲で入居者が主導して調理や下ごしらえをする事が出来る導き方をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量が1日を通して確保できているか個別に記録しており、食事量や水分摂取量が少ない方には、好みのもので摂取して頂けるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者一人ひとりに応じた口腔ケア支援をしています。また週に1回、往診歯科医と歯科衛生士さんによる口腔ケアを行い、職員は指導を受けながら夕食後には義歯の消毒を実施し、より良いケアを行えるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、定期的にトイレ誘導を心掛け、極力オムツを使用せず必要な利用者にはポータブルトイレを設置するなど自立に向けた支援を行っています。	入居者全員の排泄パターンを把握し、トイレで排泄する事が大切であるという考えを全職員がもち、さりげない誘導を行なっている。現在日中のおむつ使用者はいない。夜間おむつが必要な方にはポータブルトイレを利用してもらい、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者一人ひとりの24時間の排泄パターンを把握し、服薬、適度な運動、繊維質の多い食材や乳製品等を組み合わせたり、往診医や看護師の指導・助言等頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯や曜日を固定せず、利用者の希望やタイミングに合わせて入浴やシャワー浴を行っています。また入浴剤やゆず・りんご・みかん等で季節を楽しむ入浴も行っています。	毎日入浴出来る体制を整えている。朝6時から19時の間であれば希望する時間に入浴が可能である。入浴拒否する方については無理強いせず、清拭や部分浴で対応し、身体清潔の保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者のその時々状況に応じてゆっくり落ち着くまでお話ししたり、飲み物を勧めたり、就寝前の運動や足浴、マッサージ機の使用などで安心して気持ちよく眠れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的や副作用、用法、用量等は全職員が把握し、セット及び与薬はWチェックを徹底し、誤薬を防ぐとともに、異常時は往診医や訪問看護師に報告を行い指示を受けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で個々の身体レベルに応じた家事分担を行い、自分の役割という意識をもって頂けるよう声かけを行っています。また外に出る楽しみを日頃から心掛け、散歩や外出・買い物・外食の支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気と利用者のその日の体調を考慮して、散歩や買い物、外食など外に出る機会を多くもち、また家族とも一緒に外出できるよう御協力して頂いています。	天候がよければ日常的に散歩や買物に出掛けている。家族と外食や墓参りに出掛ける方もいる。地域の文化祭には入居者が制作した貼り絵等を出品しているが、会場となる建物の構造上見学に行く事が出来ない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族に了解の上、お金は事務所で管理していますが、一人ひとりの希望に応じて買い物など職員が付き添いながら支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームでは家族や知人との関係を大切にしており、いつでも電話をしたり、手紙やハガキのやり取りができるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた手作りカレンダーや壁絵を一緒に制作し、その時期に応じた飾りつけを楽しむようにしています。また、利用者と相談しながら音量や照明の強度、風量の調整に配慮しています。	一般家屋をホームとして利用している為、玄関を含め、共有空間は濡れ縁やたたみ部屋がある等、アットホームな雰囲気である。家具や食器に於いても一般家庭にあるものを備え、茶碗、湯呑み、箸は自分が使ってきたものを使用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	生活環境や性格の違いはありますが、共同生活を楽しむためにリビングの椅子やソファで利用者同士の談話を楽しんだり、寛げる工夫をしています。個々の生活のリズムに合わせて、自宅のように寛いだ生活が送れるよう心掛けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人の使い慣れた家具や馴染みの物を持ってきて頂き、入居前の生活の延長としての環境作りで、できるだけ自分の部屋である意識をもって頂けるように配慮しています。	居室の入口には手作りの表札があり、使い慣れた寝具、家具、仏壇等が持ち込まれている。又、ご家族の写真や馴染みの物、職員と作成したカレンダーが飾られ、その人らしさが表れている。居室は清潔が保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室やトイレ洗面所には手作りの表札を設置し、迷った時には、さりげなく手引きや声かけ誘導を行っています。常に利用者の安全に配慮しながら自立した生活ができるよう支援しています。		